

# 「世界を舞台に活躍できる人づくりのために」

—グローバル人材の育成に向けたフォローアップ提言—

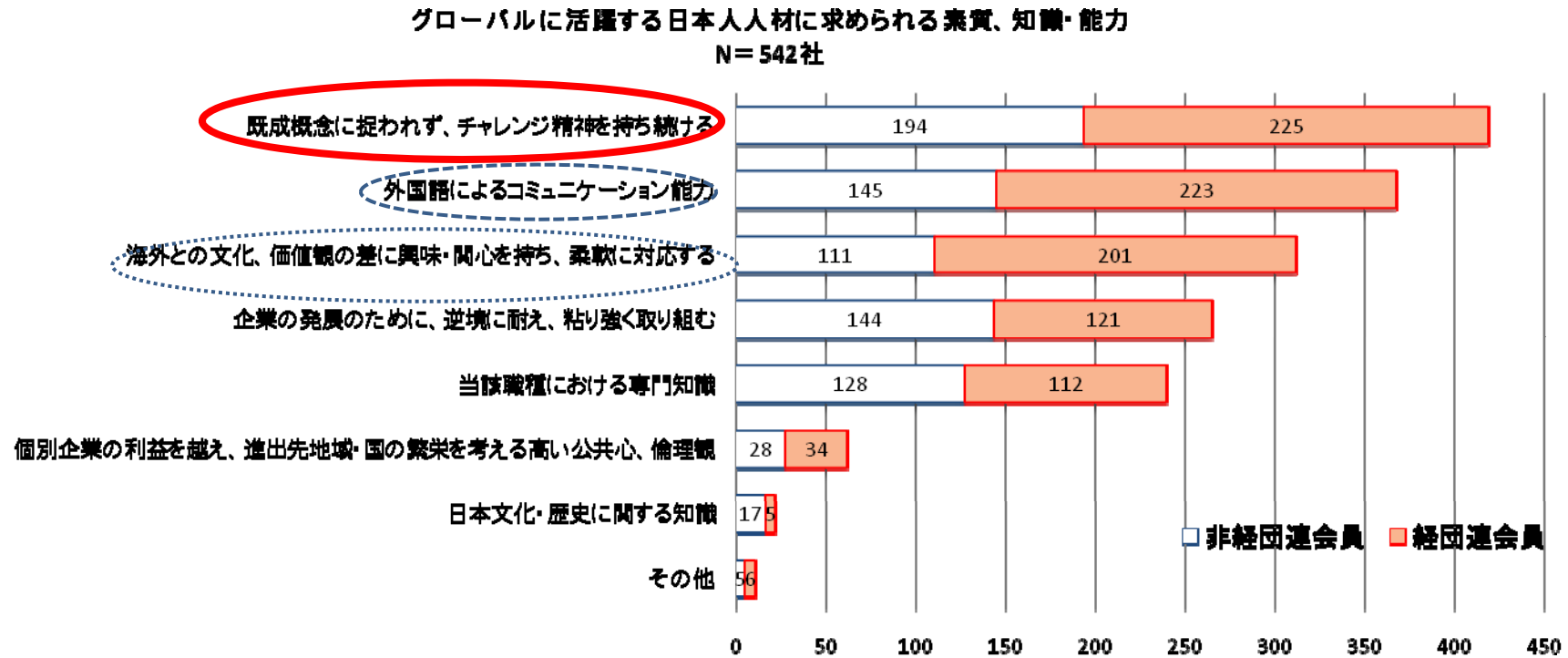
【概要版】

2013年6月13日

一般社団法人 日本経済団体連合会

# I. はじめに(フォローアップ提言の経緯)

- 2011年6月に「グローバル人材の育成に向けた提言」を公表し、産業界がグローバル人材に求める素質、能力を整理し、そのような人材を育成するため、産業界、大学、政府が取り組むべき課題について整理
- 経団連として、3つの「グローバル人材育成事業」を2012年度から実施



グローバル人材へのニーズの高まり

・東京大学の秋入学への提案  
・政府における検討(産業競争力会議、教育再生実行会議)

グローバル人材の育成に向けて、追加的な取り組みが必要な分野・課題を整理

## Ⅱ. グローバル人材育成に向けて各教育段階で求められる取り組み

### 1. 初等中等教育で求められる取り組み

#### (1) 英語教育の抜本的拡充

- 実践的英語教育による児童・生徒の英語によるコミュニケーション能力の大幅な強化
- JETプログラムの拡充、ICT教材の活用、優秀な外国人教員の採用、英語教員採用の際、TOEFL等の外部検定試験における一定の成績要件を課すこと等により、英語教員の英語力・指導力を強化

【TOEFL iBTスコアの推移】

| 年／国  | シンガポール | インド | 香港 | 中国 | 韓国 | 日本 |
|------|--------|-----|----|----|----|----|
| 2008 | 100    | 87  | 80 | 76 | 78 | 66 |
| 2009 | 99     | 90  | 81 | 76 | 81 | 67 |
| 2010 | 98     | 92  | 81 | 77 | 81 | 70 |
| 2011 | 99     | 92  | 82 | 77 | 82 | 69 |

\* 2011年、アジア30カ国中、韓国は7位、中国は14位に対して日本は28位

#### (2) 国際バカロレア (IB) 課程の普及と国内における認定校増大 (文科省の目標: 16校 ⇒ 200校)

- IB は語学力のみでなくコミュニケーション能力や論理的思考力などを身につける上でも有効

##### □ 国際バカロレア (IB)

- ・国際バカロレア機構 (本部: ジュネーブ) が実施する国際的な教育プログラム。145カ国、約36,000校において実施 (2013年5月)
- ・3～19歳までの年齢に応じて「プライマリー・イヤーズ・プログラム (PYP)」、「ミドル・イヤーズ・プログラム (MYP)」、「ディプロマ・プログラム (DP)」がある。最終試験に合格した者には、世界各国で認められる大学入学資格を付与

#### (3) 小中一貫・中高一貫校の増大による多様な教育カリキュラムの普及

## Ⅱ. グローバル人材の育成に向けて各教育段階で求められる取り組み

### 2. 高等教育で求められる取り組み

#### (1) 高大接続の改善と入試改革の実現

##### ➤ 高校修了時の必要最低限な学力を測る「高大接続テスト」等の導入

□ 大学入試センター試験のような特定の集団における相対的成績を評価するものではなく、教科書に記載されているような標準的問題を出題し、目標準拠の達成度を測定するテスト。複数回の受験を可能とするもの

##### ➤ 意欲、能力、適正等を多面的・総合的に判断する入試制度を検討

##### ➤ 入試において、TOEFL 等の英語の4技能を測る外部試験や、IB資格を活用

□ 大学入試改革については、現在、中央教育審議会高大接続部会において2012年9月より検討中。教育再生実行会議においても、今後、検討予定

□ これ迄に中央教育審議会大学分科会に提案された改革案

- ・大学入試センター試験に、レベル型の成績評価を導入し、大学入試において資格試験的に活用
- ・国立大学をグループに分け、グループ別の入学者共同選抜試験を実施
- ・志願者と大学が相互理解を深めるため、時間をかけた創意工夫ある入試を実施

#### (2) 教養教育(リベラル・アーツ教育)の拡充

##### ➤ グローバルに活躍するには、専門分野以外に多様な分野の教養を身につける必要(文科系は数学、自然科学の基礎、理工系は人文・社会科学の基礎等)

##### ➤ リーディング大学院への取り組みを通じて、専門性と複合領域にまたがる知識を備えた、博士人材を育成

□ 広く産官学にわたりグローバルに活躍するリーダー人材を育成するため、専門分野の枠を超えた複合領域の博士課程教育プログラムを実施

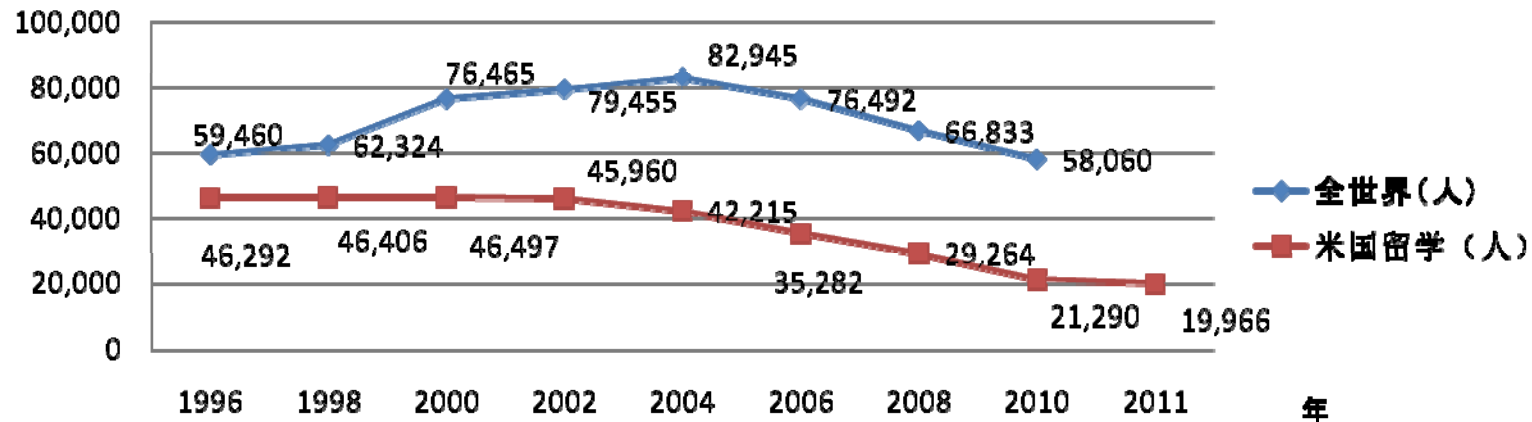
### (3) 大学の国際化のさらなる加速

- 双方向の留学生交流の更なる拡大や、海外大学との教育連携の推進  
⇒ ダブル・ディグリー、ジョイント・ディグリー・プログラムの拡大

□ ダブルディグリーは、日本の大学と海外の大学が教育課程や単位交換について協議し、それぞれが学位を授与するもの。  
ジョイントディグリーは、日本の大学と海外の大学が共同で教育カリキュラムを編成・実施し、共同で学位を授与するもの

- 大学教職員のグローバル化対応力の強化
  - ・海外の優秀な研究者、教育者の採用促進、大学教員の英語力・教育力の向上(FDの実施)、職員のグローバル化対応力の強化
  - ・各大外の研究力、教育力、国際化への取り組み等を客観的に評価する指標を開発し、評価に基づく運営交付金の重点配分
- 秋入学への移行やクォーター制の導入など、学事暦の多様化
  - ・事例: 東京大学(秋入学に向けた新学事暦案)、早稲田大学(クォーター制の導入)

日本人の海外留学者数の推移



### (4) 学生な多様な体験活動の推進

- ギャップイヤーなど、大学・学生のグローバル化に資する取り組みを積極的に評価

(例) 東京大学の『FLY(Freshers' Leave Year)プログラム』

□ 初年次長期自主活動プログラム。入学直後の学部生が1年間、休学し、ボランティア活動や海外留学、インターンシップなどの主体的な自主活動を行う仕組み。2013年度は11名が応募。

### 3. 企業に求められる取り組み

#### (1) 採用活動の多様化

- 双方向の留学生交流や学生の多様な体験活動を奨励するため、採用活動の多様化(既卒者採用、通年採用等)に向けた取り組みを一層推進

#### (2) 日本人社員のグローバル化対応力の強化

- 海外文化や市場ニーズなどを理解するため、入社後、なるべく早い時期に海外体験を付与
- 外国語や異文化・社会に関する研修を実施

#### (3) 外国人人材の定着・活用の推進

- 優秀な外国人人材の定着を高めるため、受入れ職場の環境整備やきめ細かい人事面での対応を推進
- ローカルスタッフを対象とした本社研修や、海外現地での経営研修の実施

#### (4) 人事・評価制度のグローバル共通化

- グループ企業全体のグローバルな人事データベースを構築
- 人事、評価制度のグローバル共通化と、グローバル最適を目指す人材配置
- 外国人人材や女性等、多様な人材が活躍するための各種制度、環境を整備

#### (5) 大学院等における社員の学び直しの奨励

- OFF-JTの一環として、国内外の大学院と共同で社員の学び直しのためのプログラムを開発

### Ⅲ. 経団連が大学等と連携して実施する取り組みの強化・拡充

## 経団連グローバル人材育成スカラーシップ事業

### □ 趣 旨:

日本の若い世代の間で内向き志向が広がっていることを踏まえ、**将来の日本企業のグローバルな事業活動をリードする人材を育成・支援するため、日本人学生の海外留学推進に向けた新たな奨学金を、経団連が設立した(公財)「経団連国際教育交流財団」に新設。**

### □ 募集対象(2013年度派遣生):

政府により国際化の拠点と認められた**グローバル30採択13大学**、および**国際化に積極的に取り組む大学として認定を受けた大学**など、45大学の学生で、大学の交換留学や私費留学等で、海外の大学に1年間留学する学生

### □ 奨学金の内容: 一人 100万円

### □ 募集人数: 30名程度 (2012年度 34名、2013年度36名)

### □ 原 資: (公財)経団連国際教育交流財団の積立金、及び経団連役員会社等からの寄附金

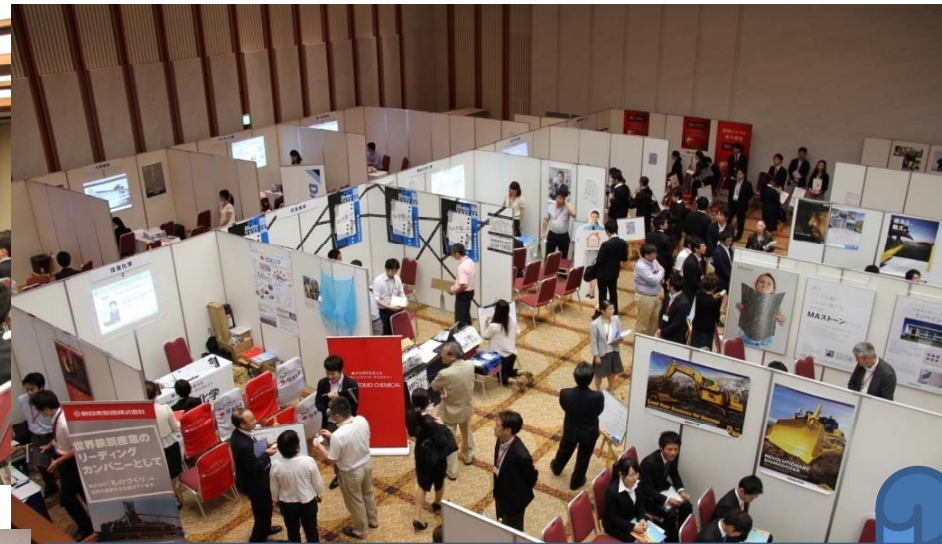
### □ 奨学生へのサポート:

- (1) 留学前に、課題共有会を開催し、各自の留学に向けた課題を共有
- (2) 留学中、SNS等を利用して留学生活や将来の進路などについて、企業関係者や財団事務局が助言
- (3) 帰国後、「経団連グローバルキャリア・ミーティング」に優先的に案内



# 経団連グローバルキャリア・ミーティング (2012年8月4日開催)

▶ 大学3年次から始まる就職活動が、学生の海外留学の阻害要因との指摘を踏まえ、海外留学帰国生を対象とした合同就職説明会・面接会を経団連会館にて開催。



- 参加企業数: 34 社
- 参加学生数: 280 名
- 対象学生:
  - 大学の交換留学等で、海外の大学に8カ月以上留学し、帰国した学生で、学部4年生、大学院修士2年生
- 2013年は7月31日に経団連会館にて開催予定

# 経団連グローバル人材育成モデル・カリキュラム

## □ 趣 旨:

大学入学後、なるべく早い時期に学生にグローバルビジネスで働くことへの動機づけをして欲しいとの企業側の意向を踏まえ、グローバル人材育成のためのモデル・カリキュラムを大学側の協力を得て実施

## □ モデル・カリキュラムの試行的実施

- ・国際化拠点大学の一つである上智大学において、大学側が選抜した2年生34名を対象に2012年秋より半年間(10月～2月初旬)、試行的に実施。
- ・経団連より12社が参加して、グローバル・ビジネスの現場で活躍する企業人が講師となり、各社のグローバル事業の理念、現状、直面している課題、大学生へのメッセージ等の講義を通じて、企業がグローバル人材に求めている素質、要件が学生に伝わるような内容とする。
- ・2013年度は大学2年生向けの「導入講座」を実施する他、大学3、4年生を対象とした課題解決型の「本講座」の実施に向けた準備を進める。

### 【講義内容の事例】

| A社(小売)           | B社(通信)                       | C社(製造業)                   | D社(物流)                   |
|------------------|------------------------------|---------------------------|--------------------------|
| 小売業の中国ビジネスの現状と課題 | ITソリューション・ビジネスのグローバル展開における課題 | 世界鉄道市場を取り巻く課題と、英国鉄道市場への挑戦 | 物流企業のグローバル化—歴史的展開と構造的課題— |

## 高校生の海外留学支援(UWC日本協会)

### □ 趣 旨:

- ・ UWC(United World Colleges:本部ロンドン)は、世界各国から選抜された高校生を世界13カ国にある全寮制のカレッジ(高校)で2年間受入れ、国際バカロレア課程に則った教育を通じて、コミュニケーション力や多様性への理解力に優れたグローバル人材を育成することを目的とする国際的な民間教育機関。
- ・ 経団連は、公益社団法人「UWC日本協会」の事務局を務め、日本におけるUWC活動の普及と奨学金を支給してUWCに派遣する高校生を選抜。

### □ 2013年度派遣奨学生

92名の応募者から、第一次試験(英・数・国の学力試験)と第二次試験(英語、日本語による面接とグループ討議)を経て、15名を選抜。英国、米国、カナダ、オランダ、イタリア、インド、香港の各カレッジに派遣予定。

### □ 原 資:UWC日本協会会員企業(経団連主要会員企業52社)及び個人会員からの寄附

以 上